

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2397400058		
法人名	株式会社イズミ		
事業所名	グループホーム西春の泉(1F)		
所在地	北名古屋市鍛冶ヶ一色西2丁目100番地		
自己評価作成日	平成30年8月6日	評価結果市町村受理日	平成30年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&UgyosyoCd=2397400058-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	平成30年9月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との関わり・外出支援には継続的に力を入れており、昨年度の途中よりは外出レク時は近隣の喫茶店や飲食店に足を運ぶように移行をさせてきている。また今年度よりは一昨年参加していた地域のサロン教室にも再度参加するようにし、地域の方との交流を深めるように現在実施している。施設内では敷地内の畑にて「野菜類・さつま芋」を昨年より植えている。植えるのは一部の入居者様に手伝って頂くと共に、助言を頂いている。また近隣の農家の方が指導をして下さる環境にもなっている。9月頃には入居者様と収穫祭を実施予定としている。今後も入居者様が毎日が楽しく生活できる環境作り・地域にもっと知って頂き地域との交流も大事にし、楽しく生活できるように支援していききたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年で7年目を迎えたひと際モダンな外観の事業所は、閑静な新築住宅や町工場が建ち並ぶ一面にある。「一人ひとりの笑顔と想いを大切に、地域の一人としてみんなに愛されるホームを目指す」を理念に、その人の今までの生活の継続をしながら、今の生活に生かして過ごせるように、職員間で話し合いケアにつなげるように心がけている。地域の人脉や資源を活用しながら、地域に知られ開けた事業所を目指して、敷地内に自販機とベンチを設置し地域の方も憩える場の提供をしたり、パンフレットを刷新したりして努力を重ねている。地域の祭りの子ども獅子の立ち寄りや園児、中学生、ボランティアなどの交流は毎年の楽しみとなっている。四季折々の移ろいを感じながらの散歩や買い物、花見、外食などを一緒に楽しんだり個別で出かけたりする機会を継続支援することが入居者の励みや笑顔の源となっている。また、家族の協力を得て普段行けない所へ出かけ入居者や家族の良き思い出となり、好評が得られている。2ユニット2階建てで、入居者が好きな場所や使い慣れた生活空間を自由に行き交えるように、階段やエレベーターなど安全に利用できる工夫をし、見守りしながら開放感のある生活できるような支援に努めている。食事は、皆で献立を考え、買い物をして手作りの食事を、職員と共に楽しんでいる。居間で、ソファに腰掛け、気の合う方とお喋りを楽しんだり、テレビを見たりしてのんびりと過ごしている。職員は、一人ひとりの笑顔と想い、その人なりの生活スタイルを大切に支えていけるように、気持ちを一つにしてケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をフロアーに共有する事でより良い支援ができるようにしている。再度アンケートを取り見直しを考えている。	事業所理念を各フロアに掲示している。「思いやりと笑顔あふれる暖かい環境」と「みんなが毎日楽しく、その人らしく過ごせる」などを目標にして、職員は一人ひとりの希望を尊重した支援をしている。毎日の申し送り時や会議、研修等で再確認し行動の指針として日々のケアを振り返りながら共有と実践に努めている。	
2	(2)	北名古屋市鍛冶ヶ一色西2丁目100番地 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内子供会・地域サロンなどの交流会に参加して楽しんでいる。買い物や喫茶店なども市内を中心に利用し交流している。	町内会に加入し、子ども会の廃品回収に協力したり地域の祭り子ども獅子が立ち寄るなど交流する機会を大切にしている。地域の商店や飲食店などの利用や散歩時には近隣の方との挨拶、ふれあいサロンに継続して参加し地域とのつながりを大事にしている。幼稚園児の歌や中学生の楽器演奏、二胡の演奏、フラダンスなどのボランティアを受け入れている。敷地内に自販機を設置し、工場の従業員や近くの方に利用してもらい地域の輪づくりの場を提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩中など近所の方は挨拶等して下さる。時々野菜作りなども教えて下さる。御家族様には日常を毎月写真、コメントにてお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度「高齢福祉課・地域包括支援センター・民生委員・ご家族様・入居者様」にて実施。施設報告や話し合い時は写真を活用し日常生活がわかるようにしている。勉強会も開き業務改善に努めている。	入居者や家族代表、民生委員、包括支援センターや市職員の参加を得て年6回実施している。運営状況や活動内容、ヒヤリハットや事故報告の他に、写真などを使い入居者の生活の様子を各ユニットごとに報告している。熱中症と脱水対策、前立腺肥大と夜間頻尿、身体拘束の取り組みについてなどテーマを決めて毎回勉強会を実施している。参加者からの意見や提案等はその場で話し合ったり、記録して会議などで協議しサービスの向上に活かしている。会議録は、家族全員に郵送している。	入居者家族や地域に運営推進会議を通して情報を得る機会があることを知って頂くために、西春の泉のおたよりなどを利用して案内したり、年間計画などで予定を知らせるなど工夫をして、開かれた交流ができるよう積極的に発信していくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所には月初めに空室状況を連絡する体制となっている。また県主催の研修や県内にて食中毒警報や感染症などに関する情報はFAXなどで適宜入り運営に役立っている。また地域の困難事例の受け入れの依頼や相談を行うなど良好な協力関係を築いている。市主催の研修会には積極的に参加している。	運営推進会議に市の担当者や包括支援センターの職員が毎回参加し情報やアドバイスを得ている。申請の代行業務などで役所へ出向き報告や相談、サービスの内容などを伝えている。食中毒警報や感染症などに関する情報はFAXなどで適宜入り運営に役立っている。また地域の困難事例の受け入れの依頼や相談を行うなど良好な協力関係を築いている。市主催の研修会には積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入口は正面が幹線道路となっている為施錠は実施しているがフロアー入口は施錠していない。今年度より2~3ヶ月に一度勉強会を実施。全職員で取り組んでいる。	身体拘束委員会を立ち上げ、カンファレンスや運営推進会議などで身体拘束について勉強会を実施している。職員は、人としての尊厳を大切に身体拘束やスピーチロックをしないケアをしていくことを周知し理解を深めるようにしている。エレベーターや階段などは、安全に利用できるよう工夫をして自由な生活空間を提供し、束縛感のない生活が送れるよう配慮している。事故防止のためセンサーマット等が必要な場合は、その都度家族に承諾を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人より各職員への虐待知識についてのチェックリスト配布、回収があり、それに対しての解説配布もあった。職員同士も声掛けを行いながら防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について定期的に勉強会を実施、その他の研修にも職員が参加を行いその後施設内にて勉強会を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき説明を行い適示相談に応じるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	申し送りノート、介護記録等を通してスタッフ間で情報共有しケアに反映させている、また定期的に運営推進会議の場にて参加者にも情報発信を実施。	入居者からは日々の関わりの中から思いを聞いている。意見や要望などは、申し送りノートに記録してミーティングで検討して情報を共有し運営に反映させている。家族からは面会時や夏祭り、クリスマス会などの行事の折に意見や要望を聞き、ケアや業務改善に役立てている。グループホームだよりを毎月発行し、入居者の日ごろの様子を記載して家族に安心を届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス等で出た意見を参考にし法人に相談を行いスタッフが働きやすい環境作りに努めている。	日常の業務の中や申し送り時、またカンファレンスで職員から提案や要望を聞き、協議をして運営に反映させている。全職員に人事考課を導入して自己評価を行い、自らの力量を正しく理解し、向上心を持ってより良いケアに繋げるよう努めている。管理者とは年2回の面談があるが、随時話し合う機会があり、常に職員の提案や意見、悩みなどを聞き、業務や職場環境などに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者はスタッフ一人一人の勤務状況の把握に努め相談しやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を行っている。研修参加後施設内でも定期的に勉強会を実施し知識習得に心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者同士の交流を行い他施設との情報交換を行い、ケアなどに反映させるように実施。時よりスタッフ間の応援にて交流を図る様になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様・ご家族様との面談の機会を設けており要望等はスタッフ間で共有する為に申し送りノートを活用し安心した生活作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時・面会時等にご家族様にコミュニケーションを図り御家族様との信頼関係構築を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時・サービス提供時には御家族様の希望をお伺い、その場で必要とされているサービス提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様とスタッフが協力し共同生活を行い入居者様一人一人が役割を持ち生活できる環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時のコミュニケーションや施設新聞を通じて御家族様には日常生活の様子やレクリエーション時の様子を写真・コメントにて伝え、相談しやすい様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会にお見えの際には居室でゆっくりお話ができるように配慮している。御友人との外出も御家族様と相談を行い許可が頂ける方は外出して頂き関係を継続できるように努めている。	アセスメントシートで生活歴や馴染みの人、場所を把握し、今までの生活が再現できる支援を目指している。友人や知人の訪問時には、共有空間や居室で落ち着いて過ごせるよう配慮している。家族の協力を得て馴染みの眼鏡店や床屋さん、補聴器の調整に出掛けたりして、馴染みの人や場所の関係が途切れないような支援に取り組んでいる。また趣味の習字や編み物、日常の買い物や家事、畑仕事などを通して今まで培ってきた経験を日常に生かしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の状態や生活歴を把握し会話の間に入ったり、作業をする際はその人に合わせられるよう心掛け楽しく作業して過ごせるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談して頂ける環境整備に努め、年賀状などにて関係が途切れない取り組みも実施している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を通してコミュニケーションを行いご本人の希望や相談事項を聞いている。またその内容に関しては申し送りノートを活用しスタッフ間での共有を行っている。	日常のコーヒータイムや入居者同士のさりげない会話、表情などからくみ取ったり、ケアの中から感じ取ったことを申し送りノートや介護記録に記載して、職員間で話し合い共有してケアにつなげている。思いの表出の少ない方は、身振りやうなづき、表情から思いを把握したり家族から話を聞いたりして本人本位に検討をして、一人ひとりの思いに寄り添う支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に御本人様や御家族様より生活歴などをお伺いし職員間での共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に記入する事で情報の共有に努め1人1人の心身の状態やできる事を把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリング・カンファレンスを行い、その内容をケアプランに反映すると共に、家族様よりも要望をお伺いし、その内容をもとにケアプランを作成しご家族様・入居者様に説明を実施。	担当職員が入居者の意向を聞いたり、日常の様子を記載した介護記録を毎日確認しながらケアをしている。毎月、重点ケアプラン活動用紙にケアの重点目標を設定して情報を共有しながら実践に取り組んでいる。3か月ごとに食事、排せつ、日常生活について、モニタリングを行い6か月ごとに介護計画の見直しをしている。毎年、医師や看護師など関係者の意見や家族の意向等踏まえながら、問題や課題について話し合い情報交換をして現状に即した介護計画を作成している。状態が変化した時は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・業務日誌・申し送りノートに記入して情報の共有に努めカンファレンスを行い介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズや課題に合わせた機能を取り入れADL低下防止に努め安心して生活していけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーへの買い物同行・外出レクでは近隣の喫茶店や飲食店を活用している。幼稚園児や子供会との交流を行うと共に、資源回収などにも協力を行い地域との関わりも持つようになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はスタッフが同行を行い適切な医療が受けられる様に情報伝達を行っている。入居者様が安心して受診できるようにご家族様にも協力をして頂く場合もある。	入居時にかかりつけ医、提携医の希望を聞いているが提携医に変更される方が多い。内科は月2回、歯科は週1回提携医による往診が受けられる。専門医の受診は家族の協力を得ているが、緊急時は施設で対応している。受診結果は申し送りノートと個人記録に記載して情報を共有し、薬は法人の薬局が持参し施設内の看護師が管理している。看護師は訪問看護師とも連携を取り健康管理に努めている。身体状況に変化があった時や緊急時は、主治医や提携医、協力医療機関による連携体制のもと、速やかで適切な医療が受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しの変化でも施設看護師に相談を行い異変の早期発見に努めている。また訪問看護ステーションの看護師にもすぐ連絡が取れる体制となっている為適切な対応が出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	安心した治療が受けられるように入院時には施設サマリーを入院時には提出を実施。また緊急入院後は往診医に連絡を行い入院病院への紹介状送付も依頼している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設での生活時は適切な対応が出来るようにご本人様の意思、ご家族様の意見を大事にし往診医と相談しながらスタッフとも連携を行い支援に取り組んでいる。	重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合は早めに家族に報告して、その都度入居者や家族に状況を説明している。看取りについては本人や家族に希望を再確認して同意を得ている。医師や看護師、その他関係機関と話し合いながら、入居者にとって最善の援助ができるように努め、可能な限り希望に添うよう支援をしている。また職員が看取りに向けてチームで取り組むための勉強会を行ない、メンタルについての研修もしている。入居者の日々のケアの大切さも説明し事業所全体で取り組んでいる。家族も共に看取る体制も整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフは救命講習に参加を行いAEDの使用方法や心臓マッサージの知識習得を行っており、急変時や万が一怪我などに対応ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者様とスタッフ共に避難訓練を実施し施設内での課題点・問題点については意見を出し合い改善に取り組んでいる。地域協力については不十分である。防災グッズは各階に置いてある。	年2回事業所独自で火災や洪水の他に様々な災害を想定した避難訓練を夜間の職員体制で実施している。各フロアごとに避難誘導や避難経路の確認をしている。屋外誘導の際の照明や段差については課題があり、問題点は職員で話し合い改善に努めている。備蓄品は外部業者が委託管理をし、水や食料など帰宅困難な職員の物資も含め3日分が各フロアに用意されている。備蓄品のリストは、防災マニュアルに記載してある。玄関には、緊急時の非常持ち出しのリュックとAED、消火器が設置、収納されている。	過去に消防関係者の協力を得て訓練を行っているので再度避難経路や安全確保などについて確認し指導や助言を受け、安全性の高い訓練になるよう期待するとともに、地域との交流を深め連携を強化して災害時に備えて近隣の方との協力関係が築かれる事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の行動や気持ち、自尊心を傷つけないような声掛け対応を心がけている。また失禁など申し送る際はイニシャルで伝え個人を特定されないように配慮している。	一人ひとりのこれまでの生き方を尊重し個々の生活スタイルを守り、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。日々のケアの中で、馴れ馴れしさや特に雑になりがちな言葉使い、声のトーンなどお互いチェックし合っている。氏名などに配慮が必要な場合は、イニシャルで表現して入居者それぞれの人間関係にも細心の注意を払った言葉使いや対応に努め、職員本位の対応にならないよう配慮している。思いやりと笑顔あふれる暖かい環境作りを大切に支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	トイレや入浴時は必ずご本人様へ声掛けをしてから誘導をしている。拒否が強い場合には無理に誘導を行わないようにしている。散歩や外出レクは入居者様が参加したいと思えるような声掛けを行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせてどのように過ごしたかを聞きながら支援を心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の更衣時にはご本人様に選んで頂くようにしているが、自己決定が困難な入居者様の身だしなみは前日や前々日と被らないようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はあるがリクエストのあったメニューを取り入れ反映させると共に季節のメニューも取り入れ四季を感じ楽しめるようにしている。	管理栄養士の献立を基に季節の食材を取り入れてユニットごとにアレンジして、毎食手作りしている。野菜など菜園で収穫したものや近隣から頂いた時は、入居者の希望のメニューに変更して、楽しみが持てるような献立を考え工夫をして調理している。調理や準備、後片付けはその人の得意分野を生かし、職員と一緒に会話をしながら楽しく行っている。職員も同じテーブルを囲み、会話を通し食への関心を引き出すような対応やその人のペースに合わせた食事時間を整えたり、見守りや食介をしている。行事食や外食、手作りおやつホットケーキやお好み焼き、パフェ作りなども楽しみの一つになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事・水分量を確認し介護記録に記入を実施。食事量・水分量より食事の多さや・体調の具合・食事形態の見直しなどを行うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。週1回歯科医・歯科衛生士による口腔ケアを導入し清潔保持に努めている。口腔ケアの拒否が強い方にはデンタルリンスを活用を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを理解すると共にその人に合わせた声掛け・誘導を実施し、トイレにて排泄できるように努めている。	個々の介護記録から排泄パターンを把握し一人ひとりに寄り添い、さりげない声かけやタイミングを工夫してその人に合ったトイレ誘導に努めている。日中は自力での排泄を目指している。夜間でも、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、丁寧な見守りの支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を観察すると共に起床時の水分摂取・朝食時に乳酸菌飲料等を提供すると共に、散歩や体操を実施し便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回を目安に入浴を実施。本人の気分、体調に配慮しながら入浴ローテーションを定め無理なく入浴できるように務めている。	入浴は1日おきに行っているが、希望があれば毎日入浴できる環境を整えている。お湯は、循環式で温度調節やお湯の補充機能があり常に清潔に保たれている。各自お気に入りの化粧水や乳液などで肌のお手入れをしている。冬季は脱衣場の暖房機を利用してヒートショックに配慮している。季節を感じるゆず湯やしょうぶ湯、入浴剤などを利用し入浴を楽しんでいる。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や気分に合わせて配慮しつつ気兼ねなく休息できるように声かけを行うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬がわかるように常に最新の薬情を個人カルテにファイリングをし、すぐに確認できるようにしている。服薬時は名前・日付けを2人で確認を行い配薬。その後口腔内の残薬確認も実施。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事等で出来る事を役割分担して参加して頂いている。買い物や外出レクにて気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎月、外食レク・喫茶レクを定め外出する機会を設ける他に、毎日の買い物も同じ人ではなくローテーションで同行して頂けるように取り組んでいる。一部のご家族様には外出支援に協力を頂いている。	日常的に散歩や買い物に出かけられる環境にあり、お天気の良い日には花壇や菜園の手入れをしたり、野菜の収穫なども行い外気に触れる機会を大事にしている。入居者一人ひとりの希望にそって、喫茶店や外食などの外出支援をしている。家族の協力を得て春にはいちご狩り秋にはリニア鉄道館など、普段行けない所へも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設にてお預かりさせて頂いているが、外出・買い物同行時には職員と共に使える様にはしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様了解のもと本人訴え時はお電話にてお話頂いている他、遠方の家族様で面会などにあまり見えない家族様にはスタッフが仲介に入り電話を行い本人とお話頂いたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた過ごせられるよう手作りカレンダーを季節に合わせた飾りつけと一緒に作り四季を感じて頂ける様にしている。	共用空間は、食堂と居間がワンフロアで明るく風通しが良く開放感がある。リビングの壁には、四季を感じられる手作りカレンダーが飾られシンプルで落ち着いた清潔感のある生活空間になっている。キッチンからは入居者の動きや気配がよく見渡せ、調理を行いながら入居者を見守ることができる配置となっている。リビングでは、ソファでテレビを見たり食堂の椅子に座っておしゃべりしたりしてのんびり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	見守りや介助が必要な方が見える為食事の際には座席を決めてはいるが、それ以外の時間は好きな場所に座って頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いた家具を持ってきて頂き好みの空間にて過ごして頂いている。家具の配置も好きな配置にして頂いている。	掃除の行き届いた居室には、使い慣れたベッドや筆筒、好みの椅子、テレビ、携帯電話など、自宅で使用していたものを持ち込み安心できるスペースや環境づくりをしている。また、愛着のある手作り作品や人形や写真などを飾って自分らしく落ち着いて過ごせるよう配慮をしている。様々な生活様式に対応し床に畳を敷いて布団で生活したり、ベッドを利用したり入居者が環境を選択できるように配慮をしている。清掃を自身で行う方もおり自立した生活が送れるような支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状況に合わせ、出来る事を見つけ役割を持って生活できるように支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2397400058		
法人名	株式会社イズミ		
事業所名	グループホーム西春の泉(2F)		
所在地	北名古屋市鍛冶ヶ一色西2丁目100番地		
自己評価作成日	平成30年8月6日	評価結果市町村受理日	平成30年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&UgyosyoCd=2397400058-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	平成30年9月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との関わり・外出支援には継続的に力を入れており、昨年度の途中よりは外出レク時は近隣の喫茶店や飲食店に足を運ぶように移行をさせてきている。また今年度よりは一昨年参加していた地域のサロン教室にも再度参加するようにし、地域の方との交流を深めるように現在実施している。施設内では敷地内の畑にて「野菜類・さつま芋」を昨年より植えている。植えるのは一部の入居者様に手伝って頂くと共に、助言を頂いている。また近隣の農家の方が指導をして下さる環境にもなっている。9月頃には入居者様と収穫際を実施予定としている。今後も入居者様が毎日が楽しく生活できる環境作り・地域にもっと知って頂き地域との交流も大事にし、楽しく生活できるように支援していきたいと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年で7年目を迎えたひと際モダンな外観の事業所は、閑静な新築住宅や町工場が建ち並ぶ一面にある。「一人ひとりの笑顔と想いを大切に、地域の一人としてみんなに愛されるホームを目指す」を理念に、その人の今までの生活の継続をしながら、今の生活に生かして過ごせるように、職員間で話し合いケアにつなげるように心がけている。地域の人脈や資源を活用しながら、地域に知られ開けた事業所を目指して、敷地内に自販機とベンチを設置し地域の方も憩える場の提供をしたり、パンフレットを刷新したりして努力を重ねている。地域の祭りの子ども獅子の立ち寄りや園児、中学生、ボランティアなどの交流は毎年の楽しみとなっている。四季折々の移ろいを感じながらの散歩や買い物、花見、外食などを一緒に楽しんだり個別で出かけたりする機会を継続支援することが入居者の励みや笑顔の源となっている。また、家族の協力を得て普段行けない所へ出かけ入居者や家族の良き思い出となり、好評が得られている。2ユニット2階建てで、入居者が好きな場所や使い慣れた生活空間を自由に行き交えるように、階段やエレベーターなど安全に利用できる工夫をし、見守りしながら開放感のある生活できるような支援に努めている。食事は、皆で献立を考え、買い物をして手作りの食事を、職員と共に楽しくいただいている。居間で、ソファに腰掛け、気の合う方とお喋りを楽しんだり、テレビを見たりしてのんびりと過ごしている。職員は、一人ひとりの笑顔と想い、その人なりの生活スタイルを大切に支えていけるように、気持ちを一つにしてケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をフロアに掲示共有する事でより良い支援が実践できるように努めている。		
2	(2)	北名古屋市鍛冶ヶ一色西2丁目100番地 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の子供会や市内の幼稚園児との交流も増えている。また今年よりは市内、市内周辺の外出レクに力を注ぎ、地域との交流を増やしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家庭菜園に力を入れており庭園を通じて近隣の住人の方に声をかけて頂いている。ご家族様へは日常の様子を毎月写真、コメントにてお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、民生委員、行政、ご家族様、入居者様にて実施。日常のイベント、施設での事故の報告など実施。また今年度よりは身体拘束委員を立ち上げ、施設内での身体拘束の勉強会の内容を報告し、行政よりアドバイスを頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月月初市役所に空室状況の連絡を報告する体制となっている。また市役所よりは電子メールやFAXなどにて研修案内の連絡が来るようになっており、必要に応じて参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度より身体拘束委員会を設け勉強会の実施を行い、普段のケアの見直しを図るようにしている。身体拘束をしないケアの実践に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	防犯カメラ(監視)導入の実施。管理者・看護師によるボディチェックを不定期に実施。職員同士も声を掛け合いながら虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の周知などはできていない。また現状活用している入居者もない。研修などあれば参加を行い知識習得に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書に基づき説明を行っている。不明な点や不安に思っている事についてはその都度お話を伺いし対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常のケアの中から意見・要望を申し送り時・カンファレンス会議時に検討して反映できるように努めている。御家族様よりも面会時にご意見を頂戴したりし反映させるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者様が過ごしやすく生活できたり、職員が働きやすくなる事に関しては法人に相談を行い反映する様に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は現場の状況把握に努め必要に応じて上司・法人と相談を行い職場環境整備を心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加する機会を増やし施設内でも勉強会を行う事で全員がスキルアップ出来る職場環境作りに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年度より地域のグループホーム交流会が始まり参加している。他施設の取り組み事項などを参考にしサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様や御家族様と面談の機会を設け今希望しているサービスを聞き送りノートにて職員間で情報共有を行いより良い生活を送れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時・面会時等に御家族様と密にコミュニケーションを図り不安な事等をお伺いし信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際には御本人様・御家族様より希望をお伺いして他のサービス内容も含めより良い生活が送れるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でその人ができる事は参加して頂き共同生活を共にしている事を実感できるような関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	フロアーに外出時の写真を掲載し、面会時には日頃の様子を写真を見ていただきながらお伝えをし御家族様と共に支えていける環境作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会にお見えの際には居室でゆっくりお話ができるように配慮している。御友人との外出も御家族様と相談を行い許可が頂ける方とは外出して頂き関係を継続できるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の状態や生活歴を把握し会話の間に入ったり、作業をする際はその人に合わせられるよう心掛け楽しく作業して過ごせるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談して頂ける環境整備に努め、年賀状などにて関係が途切れない取り組みも実施している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の食事やおやつ時に密にコミュニケーションを図り日頃のお話から希望まで聞き出し、希望に関しては申し送りにて共有を行いカンファレンスなどで検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に御本人様や御家族様より生活歴などをお伺いし職員間での共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に記入する事で情報の共有に努め1人1人の心身の状態やできる事を把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様・御家族様から思いをお伺いし居室担当者による定期的なモニタリングを行っている。その結果をもとにカンファレンスを行い介護計画を作成。御家族様に説明を行い納得して頂けたらサインを頂いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・業務日誌・申し送りノートに記入して情報の共有に努めカンファレンスを行い介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズや課題に合わせた機能を取り入れADL低下防止に努め安心して生活していけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設に買い物に同行して頂くようにしている。昨年度よりは近隣への喫茶レク・外出レクに変更している。また子供会や園児との交流する機会も設けている。資源回収は近隣の小中学校・子供会に協力をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に施設往診医による診察・通院を希望により選択して頂いている。通院希望の御家族様には協力を頂きながら実施。施設スタッフ同行困難の場合は書面にて日頃の様子を伝えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤施設看護師1名・訪問看護ステーション、看護師1名と契約を行い、入居者様の健康状態確認を行い往診医と相談しながら適切な支援が出来るように連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心した治療が受けれるように入院時には施設サマリーを入院時には提出を実施。また緊急入院後は往診医に連絡を行い入院病院への紹介状送付も依頼している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際やADL悪化時は管理者・看護師もしくはユニットリーダー・御家族様との面談の機会を設けている。施設生活希望時には常時医療行為が必要でない場合等は往診医・看護師・介護士3者が連携をして支援につなげている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員には救急救命講習に参加してもらいAED使用方法や心肺蘇生法など習得して頂き急変時や事故発生時に備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者様と職員数名分の飲料水・食料・簡易トイレ・パット類などは常備している。また毎年夜間火災・水害被害に備え避難訓練を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の行動や気持ち、自尊心を傷つけないような声掛け対応を心がけている。また失禁など申し送る際はイニシャルで伝え個人を特定されないように配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人の希望を聞き、自己決定が出来るような声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせてどのように過ごしたいかを聞きながら支援を心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際には自己にて服を選んでいただきお化粧される方には化粧品の残量の確認を実施しオシャレができる環境作りをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はあるがリクエストのあったメニューを取り入れ反映させると共に季節のメニューも取り入れ四季を感じ楽しめるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を確認。介護記録に記入を行い、その人に合わせた食事形態での提供を行い健康管理も努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前のうがい、食後の口腔ケアを毎回実施。週1回訪問歯科にて医師・歯科衛生士の専門的口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導のタイミングをカンファレンスにて話し合いを行い、時間にて誘導を実施している。排泄リズムを理解すると共に、トイレにて排泄できるように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分摂取、朝食時に乳酸品の提供、水分を取っていただけるような細かな声掛けと共に散歩・階段昇降を実施し便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回を目安に実施、本人の体調や気分に配慮しながらローテーションを行い無理なく、入浴して頂けるように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や気分に配慮しつつ気兼ねなく休息できるように声掛けを行いつつ支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテに薬情をファイリングしていつでも確認できるようにしている。配薬時には名前・日付・いつの薬かをダブルチェックにて行い、最終飲み込み確認を実施。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事等できる事を役割分担して参加して頂く。買い物や外出、地域の行事へ参加する事で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月外出レク・喫茶レクを設けている。毎日の買い物は希望者もしくはローテーションにて対応を行い同じ人にならないようにしている。数名の御家族様には外出支援も協力して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設で管理させて頂いている。外出や買い物時は職員と共に使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望訴え時は御家族様了解のもとお電話にてお話して頂く事がある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いて過ごせられるよう手作りカレンダーを季節に合わせた飾りつけを一緒に行い四季を感じて頂ける様にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	見守りや介助が必要な方が見える為食事の際には座席を決めてはいるが、それ以外の時間は好きな場所に座って頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた家具を持ってきて頂き好みの空間にて過ごして頂いている。家具の配置も好きな配置にして頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状況に合わせ、出来る事を見つけ役割を持って生活できるように支援している。		